

## 「2022年度タイ・チューラーロンコーン大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学経済学部2年 神崎柊輔

## ① 学習成果

タイに行く前は、留学そのものについての意義は正直なところは半信半疑だった。今回のプログラムが2週間であることもあり、そのような短期間で他の国の文化を知れるのか、また他の国の人々の考えに触れることができるのかについて確信を持てていなかったためだ。しかし、実際に海外に行き、短い間滞在するだけであってもその国の雰囲気や国民性などが伝わってきて、それによって文化の一部分を理解することができるようになるのだと感じた。また、少しでも体験をすることで文化の理解は一層進むということが分かった。例えば、食に関しては独特な風味を持つものが多かったが、それはタイが暑く、人々の食欲がわからない中で生み出されたものだということが分かった。このことは実際にタイでの暑さ・および食べ物の風味を体験している場合としない場合では理解の正確性が遙かに違うように思える。また、現地の学生と話す機会は短いながらあったが、その中で交流を深めることができ、また話す上で考え方の違いなども見えてきた。実際に海外に行くことがとても重要なのだと身を以て体験することができたのは良かった。

## ② 海外での経験

留学前のタイ語講座や、現地での語学学習によって、挨拶や値段を聞くなどの簡単な会話はできるようになっていたものの、パターンから外れた会話はすることができなかった。また、タイ語の文字を読むことができないため、タイ語のみでのコミュニケーションをとることはどうしても難しかった。バンコクということもあって比較的英語が通じたので、英語でコミュニケーションを取ることが多かった。また大学の食堂ではメニューの写真を撮ってそれを店員に見せて注文することもあった。その中で、相手側が、自分が日本出身であることを知ったあとに日本の話をしてくれたり、あるいは美味しいものをおすすめしてくれたりすることがあった。言語ができなくても、こちらが笑顔で丁寧に接することで、相手の対応も良くなるということが実感できた。これは日本でも同じことがあてはまるだろうと感じた。

## ③ プログラム内容

プログラムの中では、アユタヤに行ったのが一番印象に残っている。500年ほど前の寺院がほとんどそのままのような形で残されており、バンコク中心部の寺院とはまた一味違った雰囲気を味わうことができた。事前にタイの歴史を学ぶ授業があり、また現地でアユタヤの寺院の構造を教えてもらう機会があったので、楽しみがより深まった。実際に文化を体験する前に予備知識を身につけておくことでより文化の理解度が深まると感じた。

## ④ 進路への影響

日本とタイでは教育のシステムは似ている一方、タイの大学の施設は日本と比べてとても大きかった。また、タイの小学校などは寺院が運営しているところが多いなど、相違点も見受けられた。将来教育に何かの形で携わりたいと思っているが、こういった違いがアジアの中であっても生まれているのは興味深く感じた。背景を分析し、将来に役立てたいなと考えた。